

## 第11回 FMくらら857放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成29年7月25日(火) 11時00分～11時34分

2. 開催場所 ケーブルテレビ株式会社

3. 委員出席

審議委員総数 8名

出席委員数 8名

### ■出席委員(敬称略)

茅原剛	会長	(栃木市総合政策部長)
岸英司	副会長	(栃木商工会議所事務局長代行 総務課長)
高橋一典	委員	(栃木市教育委員会教育部長)
高崎尚之	委員	(栃木市産業振興部長 栃木市観光協会専務理事)
寺崎耕	委員	(栃木警察署長)
増山政廣	委員	(栃木市消防本部消防長)
大橋良久	委員	(下野農業協同組合企画総務部長)
茂呂暢	委員	(栃木青年会議所理事長)

### ■放送事業者側出席者

高田光浩	(ケーブルテレビ株式会社 代表取締役)
村上正子	(ケーブルテレビ株式会社 取締役)
木村嘉孝	(コンテンツ部課長)
清水研児	(コンテンツ部FMグループ係長)
世取山大輔	(コンテンツ部FMグループ)

4. 報告事項

事業運営状況に関する報告に続き、対象番組等について、各委員より感想・意見・疑問点等を挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行した。必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答した。

## 5. 議事

### ①5月28日(日)12時台放送「Tochigi high school radio」

(事務局) 市内の高校生と市長の意見交換会「高校生夢トーク」に参加した生徒の発案で実現。「栃木市を見て気づいたこと・思ったこと、各高校の話題を発信して高校生に聞く番組にしたい」と放送した。

(委員) 番組の事前周知はどのように行ったのか。

(委員) 練習・リハーサルをして出演に臨んだ高校生のひた向きさを感じられ、パーソナリティがトークに入るタイミングも良かった。番組構成については、事前に内容を掘り下げると良い。今後はどのような番組を目指すのか。

(委員) 市内の高校生全員が聴けるのは非常に良いこと。フリートークで誰が話しているのかが分かりにくく、名前を言ってから話すようにすれば良いのではないか。

(委員) 司会者がニックネームで呼ぶのは控えた方が良い。

(委員) 今後、継続的に高校生に出演してもらうにはどうするか。

(委員) 時事問題をトークのテーマにしてみても良い。

(事務局) 番組の宣伝としては、放送前の打ち合わせの機会でも、一度高校生に生出演してもらったほか、記者発表もしました。ケーブルテレビ・WEBなども使って、さらに宣伝に強化して参ります。ニックネームを使ったのは出演者へ配慮してのことですが、よりよい方法がないか検討します。番組の継続には、各校放送部との連携も検討しています。

### ②6月24日(土)13時放送「番外編！とち介PのHAPPY TOWN

聴いて聞いて子育て世代パパ・ママそこが知りたい！」

(事務局) 同日に開催したイベント「パパ・ママ子育て世代ふれあいトーク」の参加者をゲストにお招きして「延長戦・番外編」として放送。

(委員) とても分かりやすかったが、パパの意見・質問も聞きたかった。

(委員) 栃木市の考え方が分かって良かったが、「ふれあいトーク」本番を振り返りながら内容を深掘りして欲しかった。

(委員) BGMが暗かった。エンディングのBGMのボリュームが大きい。

(委員) 栃木市の取り組みがリスナーに伝わったのではないか。

(事務局) 途中から聴いた方への配慮は、他番組も含め向上に努めます。

### ③7月4日(火)17時台放送「Road To Victory ～栃木翔南高・栃木工業高」

(事務局) 夏の高校野球に出場する市内6校のチーム紹介を、ケーブルテレビのコミュニティチャンネルが取材した音声で放送した。

(委員) 応援している気持ちで聴いた。意気込みも伝わって良かった。

(委員) ケーブルテレビとの連携が見られてよかった。編集も良く聞きやすく、最後のかけ声も良かった。

(委員) 出場した全校が出ていてチームカラーが分かった。これを知っておけば、大会をより楽しめると思った。

(委員) 高校生のハツラツさや監督の想いが、「伝える番組」というより「伝える番組」だった。ただし番組の長さが短く感じ、もう少し聴いてみたかった。

(委員) 選手のモチベーションにつながる。卒業生にも良い企画だった。

(事務局) 高校生をはじめ、同世代の人に聴いていただく機会を増やして、この栃木市が身近に感じられる機会を作っていきたいと思います。

## 6. 審議機関の答申又は概要の公表

FMくらら857ホームページに掲載（平成29年8月掲載）